



多様性の海へ： 対話が創造する未来

Into a Sea of Diversity:
Creating the Future through Dialogue

東京大学総長 藤井 輝夫

物質的・経済的发展だけでは
人類のさらなる繁栄・幸福は実現できない



気候変動



食料危機



プラスチックごみ



エネルギー問題



COVID-19

UTokyo COMPASS の基本理念

対話から
創造へ

多様性と
包摂性

世界の誰もが
来たくなる大学

学知を生みだし、つなぎ、深め、卓越性と包摂性を実現

学術での卓越を実現するための、真理への探究心と学問の自由に根ざす研究
地球的な視野、高い倫理、粘り強い実践力、問いを立てる力を育む教育
多様な人間が集まり、課題の発見と共有と解決に取り組む場としての大学
地球規模の課題の解決へ貢献し、世界の公共を担うために創造的に自らの実践をデザイン
インクルーシブで自由なより良い未来社会の創造を目指す

UTokyo COMPASS 

対話が創造する未来

知るために問う



問いを共有する



ともに問う力



理解と信頼へ



多声の協奏

誰もが参加できる海洋観測プロジェクト

OMNI

3つの視点 (Perspective)



PERSPECTIVE 1

知をきわめる

真理を探求、多様な学知を創出
公共性へ奉仕、透明性の確保
知の接続機能を持つ拠点、文理
の垣根を越えた連携
好奇心やひらめきを駆動力に、
対話を基礎に



PERSPECTIVE 2

人をはぐくむ

未来を築く卓越した人材を輩出
共感形成の能力を身につける教育
開かれたネットワークの中でしな
やかな対話力を
学生との対話や学生の参加を促進



PERSPECTIVE 3

場をつくる

多声性を活力とする場に、対話で包摂
構成員の多様性を重視、デジタル・イン
クルーシブキャンパスを実現
自ら起点となって社会との架け橋を創る
公共的な存在意義や機能への信頼と支持

3つの視点に好循環を生み出すには



新たな時代の大学という法人の自律性・創造性のあり方を検討

**自律的で創造的な活動の基盤となる
経営力を確立する**

大学の経営力とは

「創造的に自らの実践をデザインする力」

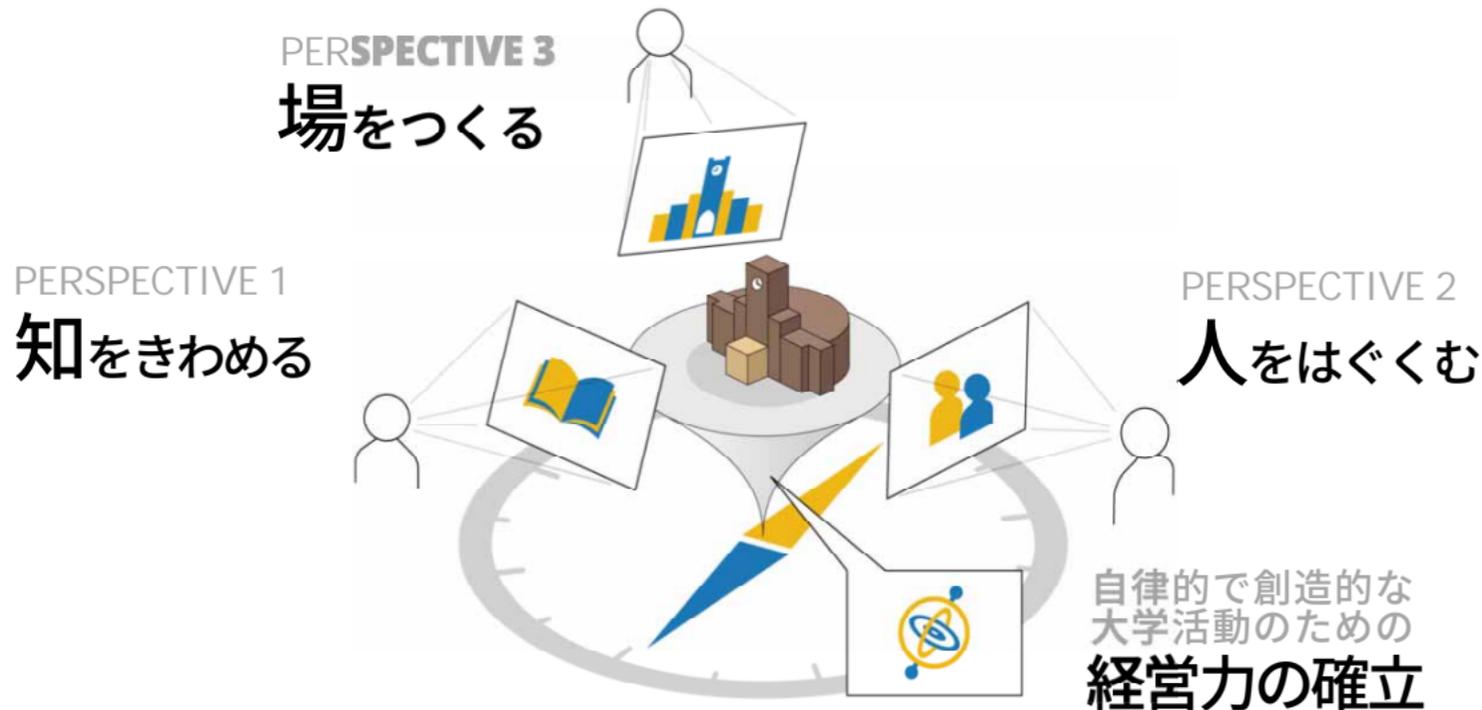
国から付託された従来の役割を越え、財務・人事などにとどまらず、
学問の裾野を広げていくために必要な不断の改革や進化

経営力を高める



大学の多様な教育研究活動と社会からの支持・支援を広げる
「公共を担う組織体」としての成長モデルを構築

3つの視点 (Perspective)



UTokyo COMPASS

具体的な行動計画



新しい大学モデル



「自律的で創造的な大学モデル」の構築

財務経営本部(仮称)の設置、リーガルマネジメント体制の構築、リスクガバナンス体制の高度化



多様な財源の効果的な活用

1,000億円程度の法定基金(仮称)を創出、大学債の活用、東京大学基金の拡充(非目的指定寄附金: 2026年度末までに残高200億円を達成)



ブランド・レピュテーションの確立

コミュニケーション活動基盤の構築と展開、東京大学の新たなブランド確立、卒業生ネットワークの強化



UTokyo COMPASS

具体的な行動計画



地球規模の課題 解決への取組

GX: Green Transformation
DX: Digital Transformation



国際的なGXを先導

グローバル・commons・ステewardship指標の作成、産学連携プラットフォームETI-CGCを新たに組織、東京大学のCO2実質排出量を2030年度に2006年度比で半減、Race-to-Zeroに参加、GX本部(仮称)の設置



データ活用社会の創成と実践

医療・気象・社会・材料、災害予測、防災支援、SINET、mdx、DX本部(仮称)による包括的DX推進



ダイバーシティ&インクルージョン推進

ダイバーシティ研究・教育推進機構(仮称)の設置、ダイバーシティ&インクルージョン宣言を策定



未来を築く卓越した人材の排出

社会のさまざまな場を支える、対話力に優れ、専門知と教養を備えた知識人、聞こえにくい声にも耳を傾け、自らの声がどう響くかにも自覚的な共感形成の能力



UTokyo COMPASS ▲ が描き出すこれからの東京大学

多様な人々が集い、対話し、
新たな学知を生み出す。



多様性に開かれた対話を通じてあるべき未来像を社会とともに創り上げる



多様性の海へ: 対話が創造する未来